

第1回 大宮公園ランドデザイン検討委員会

資 料

I. 大宮公園ランドデザイン検討委員会の背景と目的	1
1. ランドデザイン策定の背景.....	1
2. ランドデザイン策定の目的.....	1
3. 大宮公園を包む物事.....	1
4. ランドデザインの対象.....	1
II. 大宮公園の歴史.....	2
1. 氷川神社の歴史（大宮公園前史）	2
2. 大宮公園の変遷	3
3. 大宮公園及び対象範囲のポテンシャルの現況.....	7
4. 大宮公園の未来を考える.....	10
III. 大宮公園ランドデザインの方向性の検討.....	13

平成29年 10月 17日

埼玉県都市整備部

大宮公園ランドデザイン検討委員会 検討スケジュールについて

※検討委員会は平成29、30年度の2か年度で、県民への意見聴取を挟み、計5回開催する予定です。

平成29年度 (2回)	10月17日 第1回検討委員会 1月 第2回検討委員会
平成30年度 (3回)	5月 第3回検討委員会(中間とりまとめ) (県民への意見聴取) 11月 第4回検討委員会 1月 第5回検討委員会(最終とりまとめ)

II. 大宮公園の歴史

1. 氷川神社の歴史（大宮公園前史）

大宮公園はかつての氷川神社境内地に開設（明治 18 年）され、現在に至る。

氷川神社は 2000 年以上の歴史を持つといわれ、また大いなる宮居として大宮の地名の由来ともなる国内屈指の古社である。

氷川という名称は、「水」に由来するといわれ、大宮台地端部の湧水が信仰の対象であったと考えられる。

表 氷川神社と周辺の歴史概要

- ◆第 5 代孝昭天皇の時代：御創立
- ◆第 12 代景行天皇の時代：日本武尊が東夷鎮定の祈願
- ◆第 13 代成務天皇の時代：武蔵国造・兄多毛比命（出雲族）が氷川神社を専ら奉崇
- ◆第 45 代聖武天皇の時代：武蔵一宮と定められる
- ◆第 60 代醍醐天皇の時代：延喜式神名帳が制定され、名神大社となる
- ◆天慶 3 年（940 年）：日本武尊に倣い平貞盛、将門の乱の平定に先立ち氷川神社で祈願
- ◆治承 4 年（1180 年）：源頼朝、祈願の主旨で、社殿再建
- ◆建武 3 年（1336 年）：足利尊氏、参詣・寄進
- ◆14 世紀（1338～1358 年：将軍任命から没年まで）：「足利将軍尊氏公御教書」
- ◆16 世紀（1518～1590 年：氏綱の家督継承～小田原征伐）「小田原北條家神領寄附之状」
- ◆文禄 5 年（1596 年、豊臣政権時代）：徳川氏、社頭造営（社頭：社殿の前、神社の付近）
- ◆寛文 7 年（1667 年、将軍は四代家綱）：社頭整備、社殿建立
- ◇江戸時代：見沼溜井の開発：かつて神社東側は見沼、神沼、御沼とも言われた広大な湖沼で、周囲約 39km に及ぶ大貯水池が開発された
- ◆明治元年（1868 年）：氷川神社親祭の詔、明治天皇行幸、御親祭執行……①
- ◆明治 3 年（1870 年）：明治天皇行幸、御親祭執行
- ◆明治 4 年（1871 年）：官幣大社に列せられる
- ◆明治 11 年（1878 年）：明治天皇行幸、御親拝

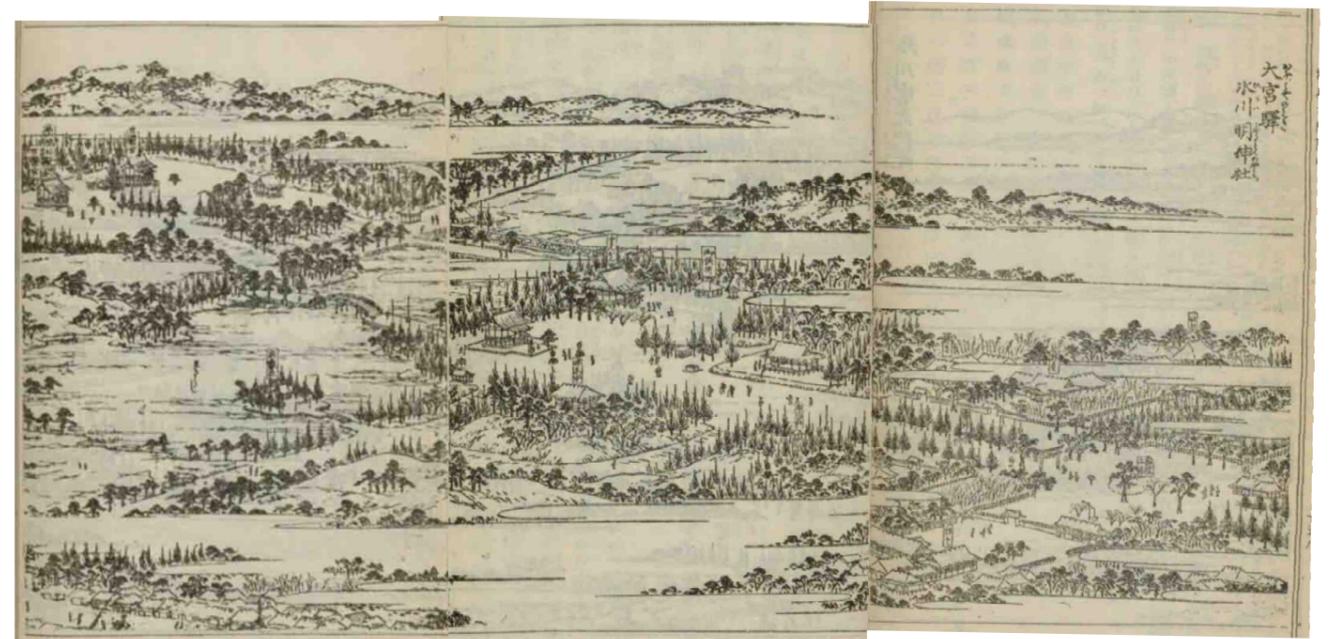
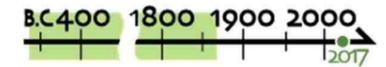
◆：氷川神社関係、◇：その他 資料：氷川神社ホームページなど



現在の氷川神社



さいたま新都心から見た氷川参道と氷川神社



※絵図の左上に氷川神社本殿及び、神池と太鼓橋が描かれている

※本殿右手には台地や松林と思われる樹林が描かれ、現在の大宮公園原風景を想起させる

江戸名所図会巻之四天権之部 大宮驛氷川明神社、氷川宮大門先
資料：江戸名所図会第 3 昭和 2 年有朋堂書店（国立国会図書館デジタルコレクション蔵）



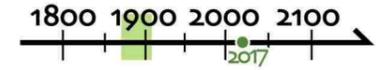
「氷川神社行幸絵巻」（県指定有形文化財）
天地 43.5cm
長さ 1,332cm の巻物に、総勢 450 名の
壮大な行列が描かれている。

①

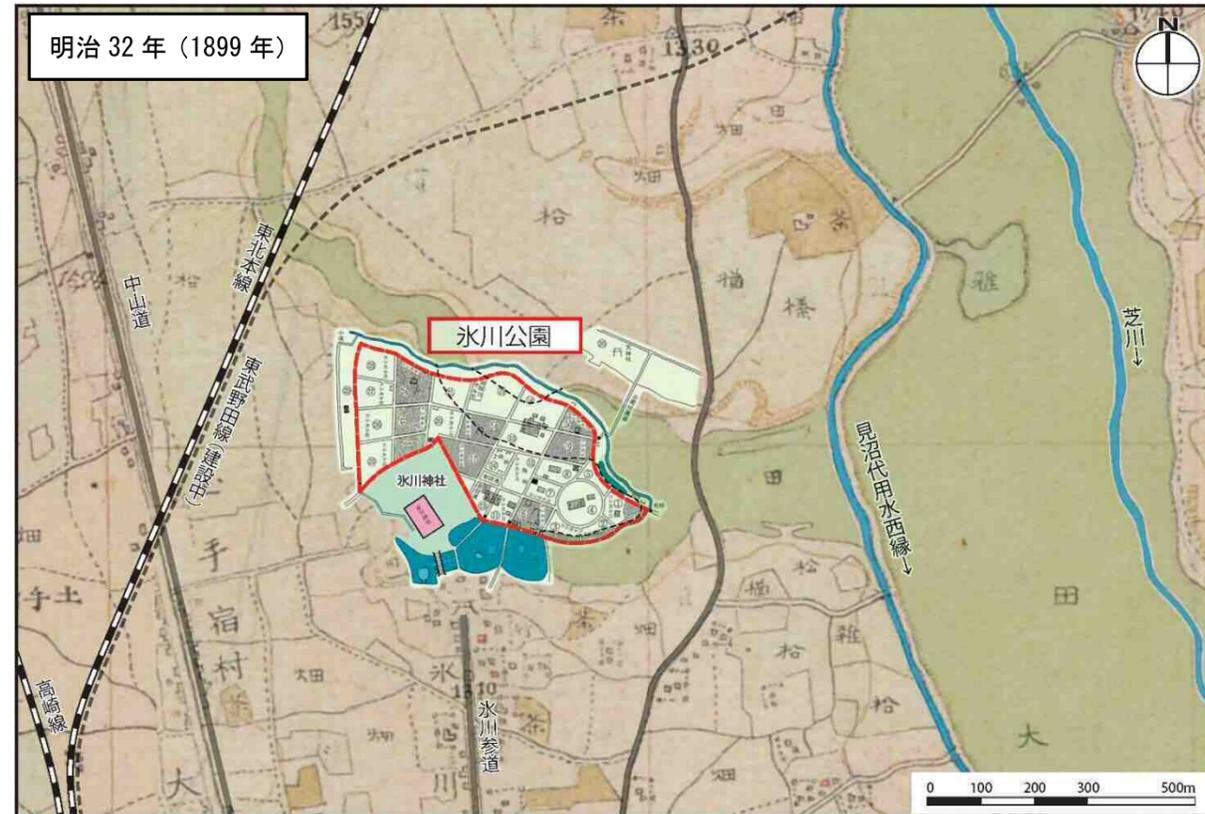
明治天皇行幸絵巻
資料：氷川神社ホームページ

2. 大宮公園の変遷

大宮公園は氷川神社の旧境内地に開園後、130年余りの間、時代の要請に応え整備・拡張を続けてきた。その時代背景と整備の変遷を振り返る。



【文人墨客に愛された行楽の時代】：明治元年～明治37年（1868～1904年）



※明治32年の氷川公園図を、明治13～19作成の迅速側図に合成
 ※氷川公園図：県行政文書・明二一三三、迅速側図：国土地理院

a：時代背景と公園整備に関する出来事

明治政府の近代化政策により、鉄道網の整備が開始された。
 江戸時代は門前町や宿場町として栄えてきた大宮町ではあるが、明治に入り鉄道が整備（現高崎線：明治16年）される一方、駅は建設されず、町の衰退が懸念された。

- ◆明治元年 神仏分離令に伴い氷川神社境内地の一部が官有地化
- ◆明治6年 太政官布達第十六号（公園設置に関する候補地の申し出）
- ◆明治13年 桜や楓、松などの植栽
- ◆明治17年 吉田県令宛に公園設置の請願（3月）、国からの公園建設の許可（6月）
- ◆明治18年 大宮駅開業、現東北本線開通、氷川公園開園

b：土地利用

- ◆住宅地のように矩形の町割が行なわれ、割烹旅館などが高台の見晴らしの良い場所に設置された

c：地形（景観）

- ◆春は桜や蕨狩り、夏は見沼の螢狩り、秋は松茸狩り、冬は雪見の絶景



氷川神社境内全図
 資料：地図・絵図でみる大宮の移り変わり
 （年代不詳、明治期と想定される。社殿右側に「大宮公園」の表示がある）

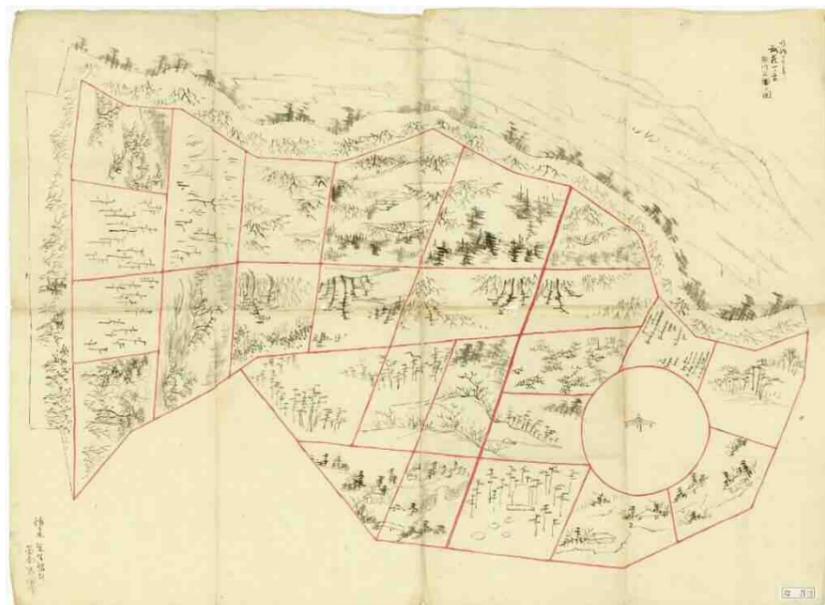
d：施設概要

- ◆公園施設としては、広場やこしかけ（ベンチ）、ブランコなどの施設が点在していることが図面に示されている

e：トピック

- ◆上野～熊谷間の鉄道開通時に大宮には駅がなかったことから、大宮町の町勢振興を求める地元有志により、大宮駅の設置と氷川神社旧境内地の本格的な公園化が請願された
- ◆正岡子規、夏目漱石、樋口一葉、永井荷風など多くの明治の文豪がこの地を訪れ、作品に描いている

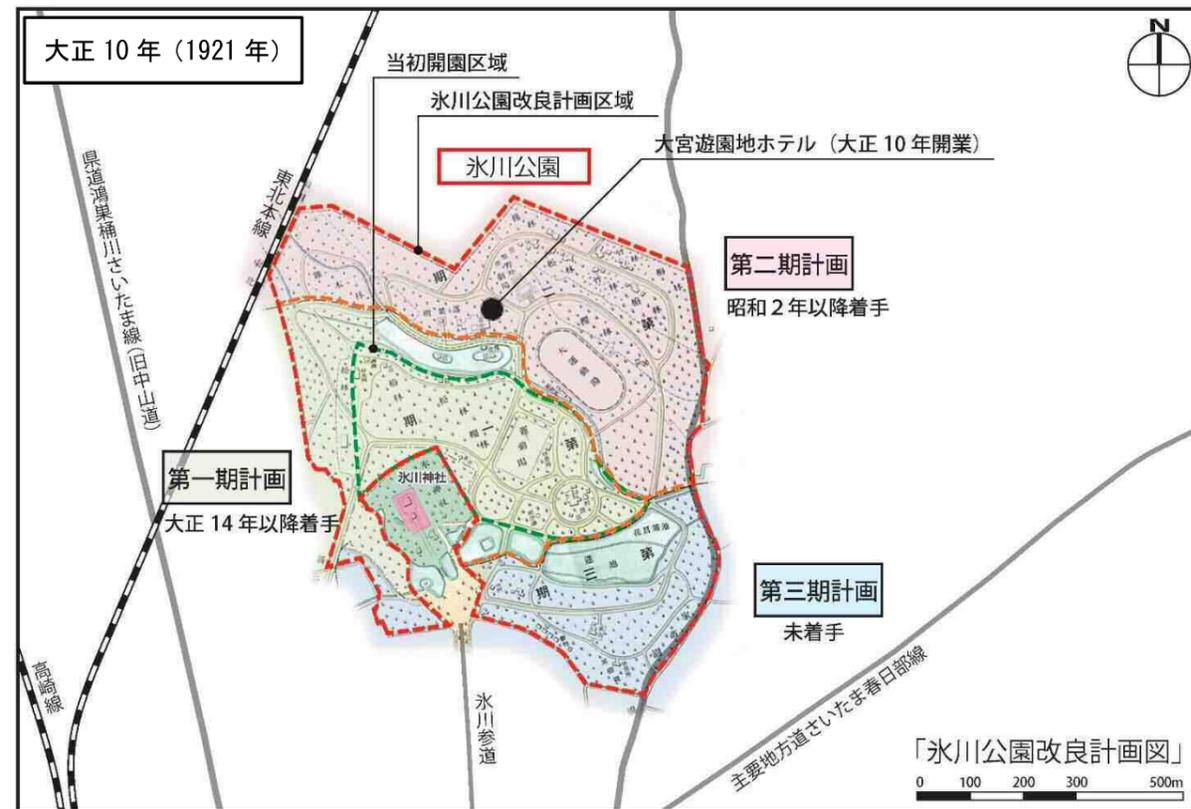
大宮町の発展を期待する地元の強い要望により、氷川公園と鉄道駅の誘致が成功し、東京から文人墨客や多くの観光客が訪れる野趣豊かな行楽地として繁栄した。



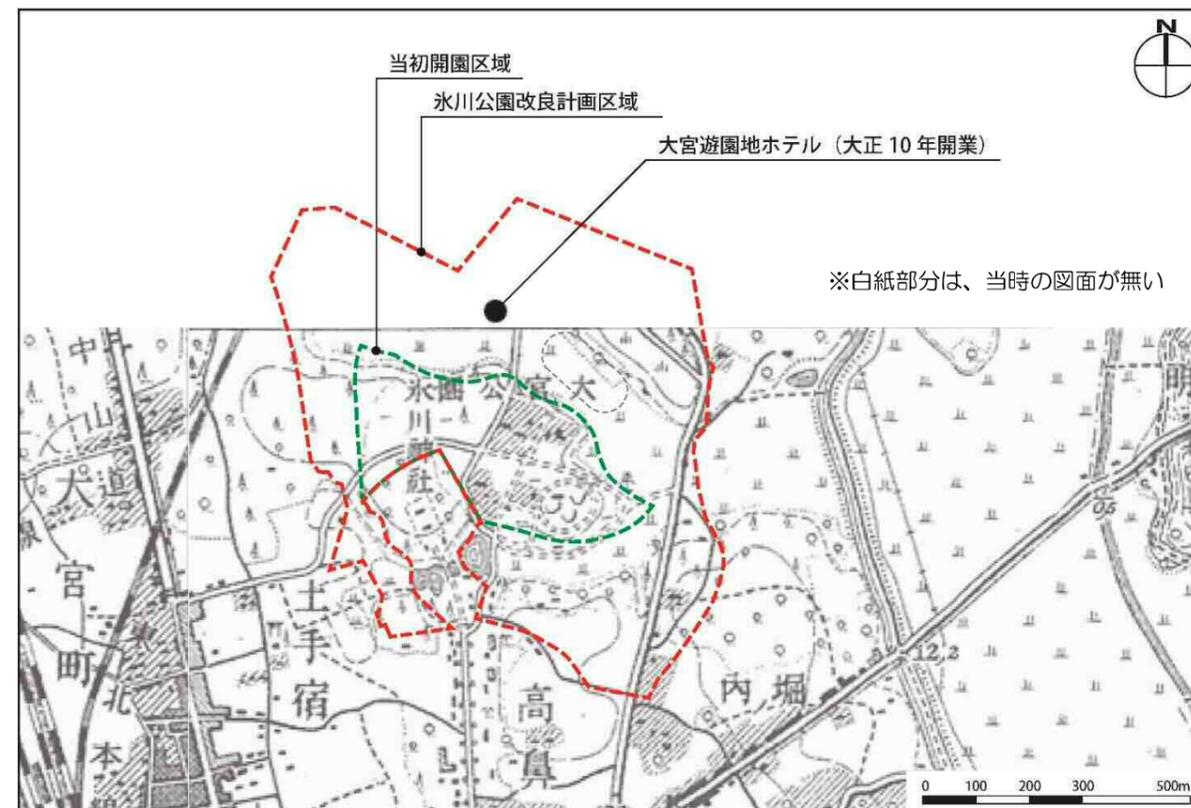
佐々木可村計画図（写）
 資料：（公財）東京都公園協会
 東京グリーンアーカイブス所蔵

※佐々木可村による当初設計の設計図の写し
 ※佐々木可村は、渋沢栄一の飛鳥山邸の作庭などを手がけた庭師

【本多静六博士の公園近代化方策など】明治38年～大正10年（1905～1921年）



※「氷川公園改良計画」の付図に、氷川公園改良計画区域及び当初開園区域、道路・鉄道を加筆



※大正13年の地形図(S=1:25,000)に、「氷川公園改良計画」及び当初開園区域の計画範囲を加筆
※当時の氷川公園が高台を利用している様子が伺える

a：時代背景と公園整備に関する出来事

交通網の整備や余暇の活用に伴い、明治末から昭和初期にかけて観光ブームが到来。

開園後20余年を経た大宮公園も来園者の増加と共に、休憩施設や運動場の整備に対するニーズが高まった。関東大震災（大正12年）や金融恐慌（昭和2年）など、社会経済的には困難な時代。

- ◆明治38年：公園拡張や運動場などの整備に対する意見書が県議会に提出
- ◆大正2年：長岡安平（東京市嘱託）らへの公園拡張計画の作成依頼と水害による頓挫
- ◆大正10年：本多静六博士による「埼玉県氷川公園改良計画」の策定



東京浅草区夏季林間学校の様子
資料：さいたま文学館「大宮公園と文学者たち」冊子より

b：土地利用

◆開園当初の台地上の公園区域を西側に拡張した第一期計画、北側の低地と台地を使う第二期計画、南側の低地と台地部分を使う第三期計画の3段階の拡張計画

c：地形（景観）

- ◆氷川神社を取り囲む低地帯の地形を利用し、池や菖蒲田を配置するなど地形を巧みに使った計画
- ◆行楽地として確立されていた景色を邪魔しないよう、大運動場を低地部に作るなど景観にも配慮が成された

d：計画概要

- ◆第一期計画：公園内の主要部分に立地する料亭を移設し、遠足で訪れる子ども達が遊ぶ小運動場として計画。舟遊釣魚の池（現 舟遊池）、氷川神社社殿裏手の社叢林拡充などを計画
- ◆第二期計画：第一期区域の北側の低地部分に、大運動場を整備、さらに北側の台地部分に野外劇場や料亭の移設地として計画
- ◆第三期計画：低地を利用した蓮池、花菖蒲池や、台地部分には家畜園、動物舎、果樹園などを計画



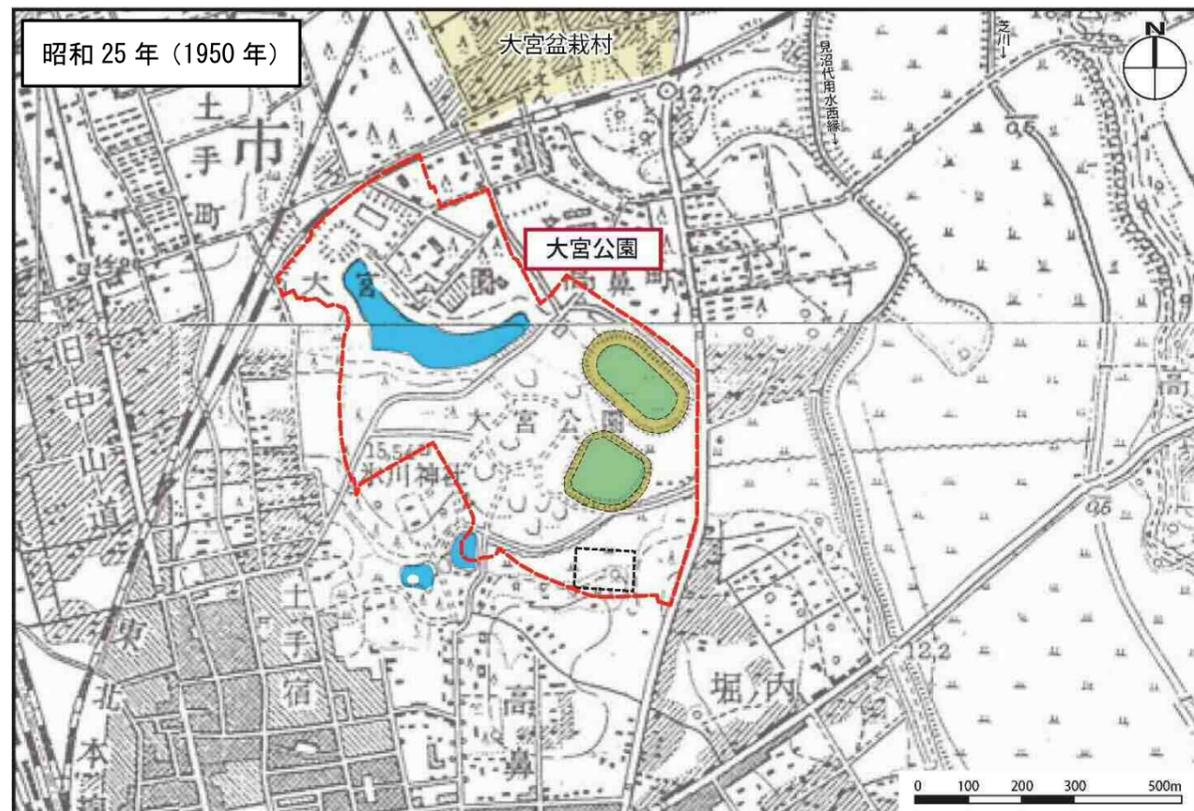
大宮遊園地ホテル
資料：大宮公園思い出の写真集より（撮影日：不詳）

e：トピック

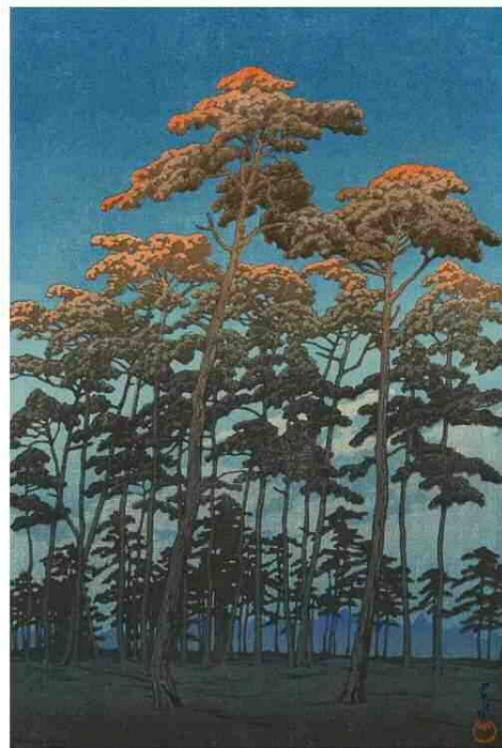
- ◆明治41年 幼少の昭和天皇や秩父宮も学習院の遠足で茸狩りに訪れるなど、東京からの一大観光地としての地位が確立していた
- ◆大正10年 大宮遊園地ホテル開業（右上写真）

氷川神社を中心に、広場や水辺、運動施設など、大宮公園における土地利用の礎が定まると共に、自然景観の保全、官民連携、公園による経済振興など、現代にも通じる公園政策が策定された。

【幻の東京オリンピック、東京オリンピックの時代】大正 11 年～昭和 39 年（1922～1964 年）



※昭和 20 年代（昭和 24～31 地形図 S=1:25,000）の地形図を着色
 ※双輪場（陸上競技場）や野球場が整備
 ※公園区域東側に見沼田圃が接している



昭和 9 年 試合前の
 ペーブルース
 資料：さいたま市立
 博物館

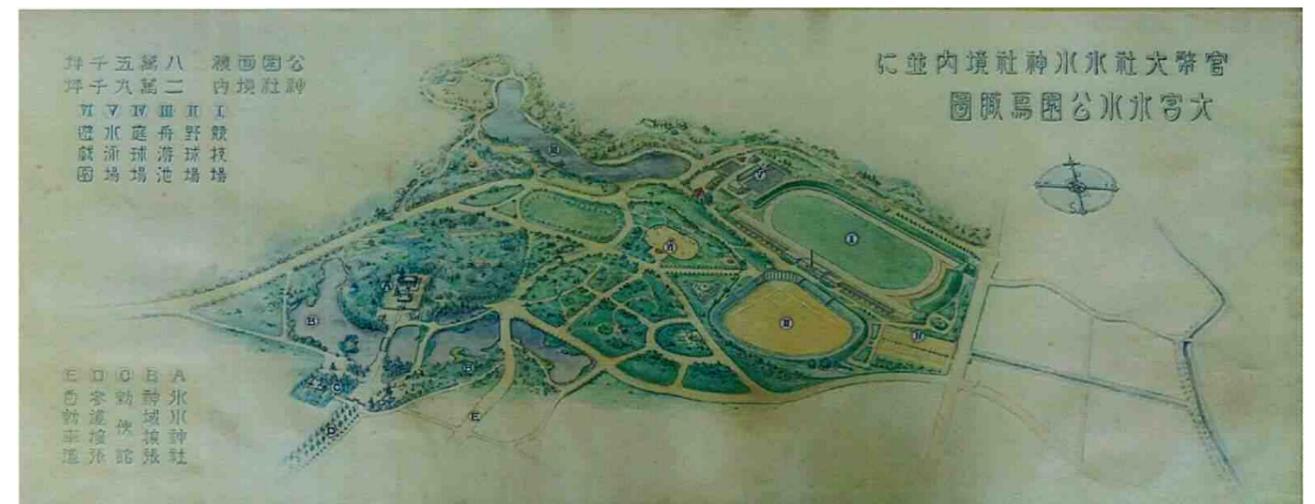
大宮氷川公園（昭和 5 年 1930）川瀬巴水
 資料：さいたま文学館 「大宮公園と文学者たち」冊子より

a：時代背景と公園整備に関する出来事

本多静六博士らの改良計画を基に、関東一のスポーツの殿堂を目指して改良計画が推進された。幻の東京オリンピックにより、更に運動公園化への動きが強まった。終戦後は、高度経済成長、東京オリンピックの誘致などを受け、スポーツ施設が拡充される時代を迎える。

- ◆昭和 9 年 野球場完成・同年日米親善野球開催
- ◆昭和 11 年 幻の東京オリンピック（昭和 15 年）誘致による双輪場、陸上競技場着手
- ◆昭和 30 年 高度経済成長、東京オリンピックによるサッカー場着手

b：土地利用



昭和 15 年頃描かれた「大宮氷川公園鳥瞰図」 資料：大宮公園事務所蔵

c：地形（景観）

- ◆「大宮氷川公園鳥瞰図」からは、野球場・陸上競技場の西側の低地部を流れる水路や、公園東に位置する見沼田圃や水路の様子が確認できる

d：施設概要

- ◆昭和 10 年 舟遊池完成、昭和 14 年 双輪場完成、昭和 15 年 陸上競技場完成
- ◆庭球場・水泳場・遊戯園が整備される
- ◆昭和 30 年 弓道場完成
- ◆昭和 35 年 旧サッカー場完成（日本初のサッカー専用球技場）

e：トピック

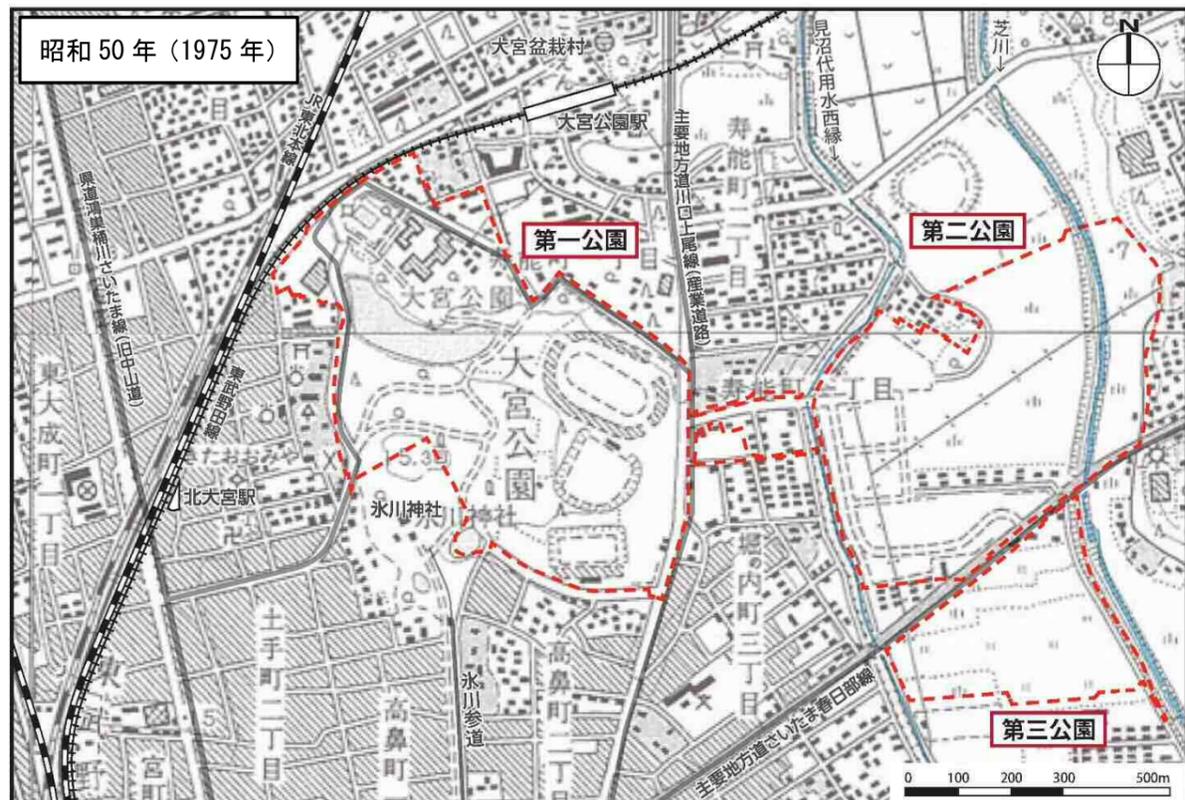
- ◆昭和 5 年 松林の景観が、昭和初期にも描かれている（左図）
- ◆昭和 9 年 日米親善野球開催（左写真）
- ◆昭和 10 年 遊園地ホテルで盆栽村誕生十周年記念盆栽大交換会
- ◆昭和 39 年以降 含翠楼、遊園地ホテルが取り壊され、明治大正期の行楽的な要素が喪失

幻の東京オリンピックや東京オリンピックの開催など、その時代毎の背景や要請により、現在の大宮公園を形作るスポーツ施設の拡充が進展した。

【見沼三原則・環境、生物多様性の時代】昭和 40～平成 28 年（1965～2016 年）



※現在の宮公園をさいたま市都市計画図（S=1:2,500）を基に着色



※昭和 50 年代の国土院地形図（S=1:25,000）に、大宮公園の境界を記入
※見沼田圃（第二・第三公園予定地）で、宅地化が進んでいる

a：時代背景と公園整備に関する出来事

高度経済成長期以降、大宮区周辺は東京のベッドタウンとして急激な市街化が進んだ。社会の成熟化や市民ニーズの多様化に加え、自然環境の重要性が見直された時代である。

- ◆昭和 40 年 「見沼田圃農地転用方針」の決定
- ◆昭和 55 年 第二公園供用開始（軟式野球場、テニスコート、多目的広場、遊水池など）
- ◆平成 13 年 第三公園供用開始（みぬまの沼、みぬまの森、芝生広場など）

b：土地利用

- ◆さいたま新都心駅から氷川神社に至る氷川参道のケヤキ並木がはっきりと確認できる
- ◆大宮公園周辺は、市街化が進み住宅地に囲まれている
- ◆第二、第三公園は、乱開発防止や見沼田圃の環境を保全する目的で計画された



c：地形（景観）

- ◆施設の大型化、都市化が進み台地と低地の判別がしにくい状況となった
- ◆第一公園内では、桜の樹勢に衰退が見られ、大宮公園桜守ボランティアにより桜の保護の取り組みが進められている

d：施設概要

- ◆昭和 46 年 県立博物館（現 歴史と民俗の博物館）開館
- ◆昭和 47 年 体育館完成
- ◆平成 4 年 現 野球場完成（第一公園）
- ◆平成 5 年 双輪場スタンド完成（第一公園）
- ◆平成 19 年 NACK5 スタジアム完成（第一公園）



第一公園内アルティージャ戦観戦者の行列

e：トピック

- ◆平成 元年 日本の都市公園100選
- ◆平成 2年 さくらの名所100選に選定
- ◆平成 12年 舟遊池貸しボートの営業終了
- ◆平成 25年 小動物園の獣舎の改築開始
- ◆白鳥池改修予定



第二公園 遊水池の様子

第一公園で進められた施設拡充の時代を経て、自然環境保護（見沼田圃）の観点から、第二・第三公園の整備が進められた。

3. 大宮公園及び対象範囲のポテンシャルの現況

(1) 大宮公園のポテンシャル（視察時意見、利用者アンケートなど）

各委員の視察時の意見

■第一公園■

【日本庭園】

- ◆視点が無く、一望できない
- ◆管理に金がかかるデザインだ

【児童遊園地】

- ◆飛行塔はデザインが古く面白い

【舟遊池】

- ◆池の景観を生かすべき、人が集まる明るい池であるべき
- ◆ボートは復活してはどうか

【歴史と民俗の博物館】

- （故 前川國男設計、公共建築 100 選）
- ◆建物がすっきりしている。外の景色との相性もいい
- ◆博物館の中からの景観が素晴らしい

【売店】

- ◆今の売店はニーズに合っていない
- ◆池の景観を生かしたオープンカフェがあってもいい

【スポーツ施設】

- ◆（歴史的背景から）スポーツ観戦は、大宮公園の文化。観戦だけで終わらせない、人を滞留させる工夫が必要
- ◆試合がない日でも、にぎわう工夫が必要
- ◆客層の転換が必要

■第二公園■

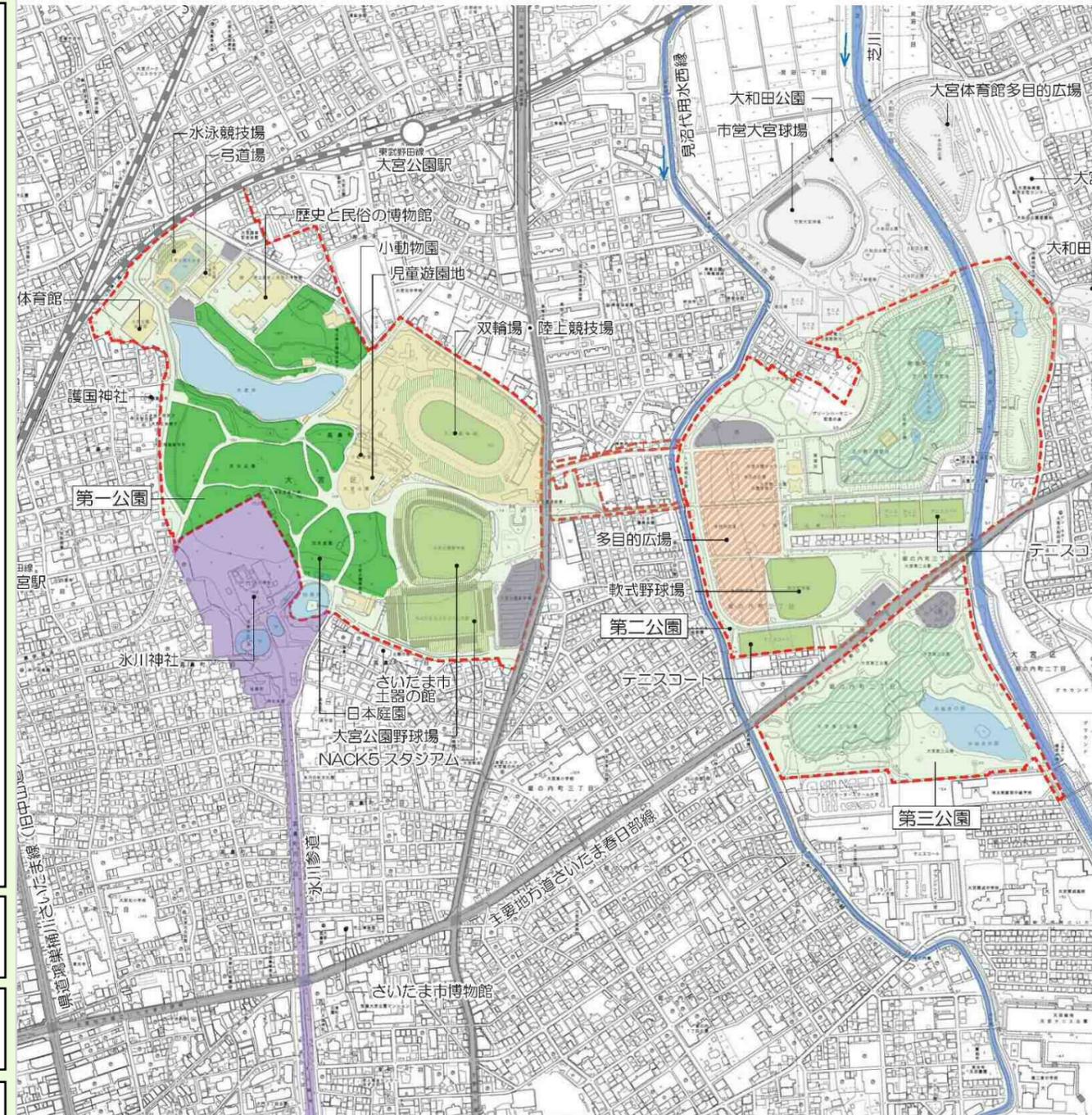
- ◆子どもを遊ばせやすく広々としている

■第三公園■

- ◆完成されていて、いじるところはない

【その他】

- ◆埼玉らしさを発信する場とする
- ◆第一公園と第二・第三公園はテーマが違う
- ◆赤松の景色と盆栽の雰囲気をもっと活用できないか
- ◆若い女性が集まる、デートスポットでなければ人は集まらない
- ◆カラスをどうにかしたい



【凡例】

都市計画区域（公園）	水面
氷川神社・氷川参道	公園内施設
樹林地	屋外競技施設
広場	スタンド
多目的広場	駐車場

公園利用者の声

【利用頻度】

- ◆ほとんど利用しない（年に数回）
（男女 20 代までの世代 各々 6 割）
年齢層が上がるほど、利用頻度が上がる

【利用目的】

- ◆散歩（男女とも 6 割）
- その他
- ◆花や植物などの自然鑑賞
- ◆運動（男性の 2 割）

【公園に欲しいもの】

- ◆このままでよい（60 代以上の 5 割）
- ◆カフェ（飲食店など）
（20～50 代まで女性の 5 割）
- ◆コンビニなどの売店
（30～40 代女性 3 割）
- その他
- ◆子ども用の遊具
- ◆子育て支援機能の充実
（おむつ替えや授乳スペースなど）

地元協議会の声

【今後も生かしていくべき点】

- ◆氷川公園から続く歴史
- ◆赤松と桜が作る風景、日本的景観
- ◆前川國男氏設計の県立博物館
- ◆スポーツ文化
- ◆地形（大宮台地、見沼）

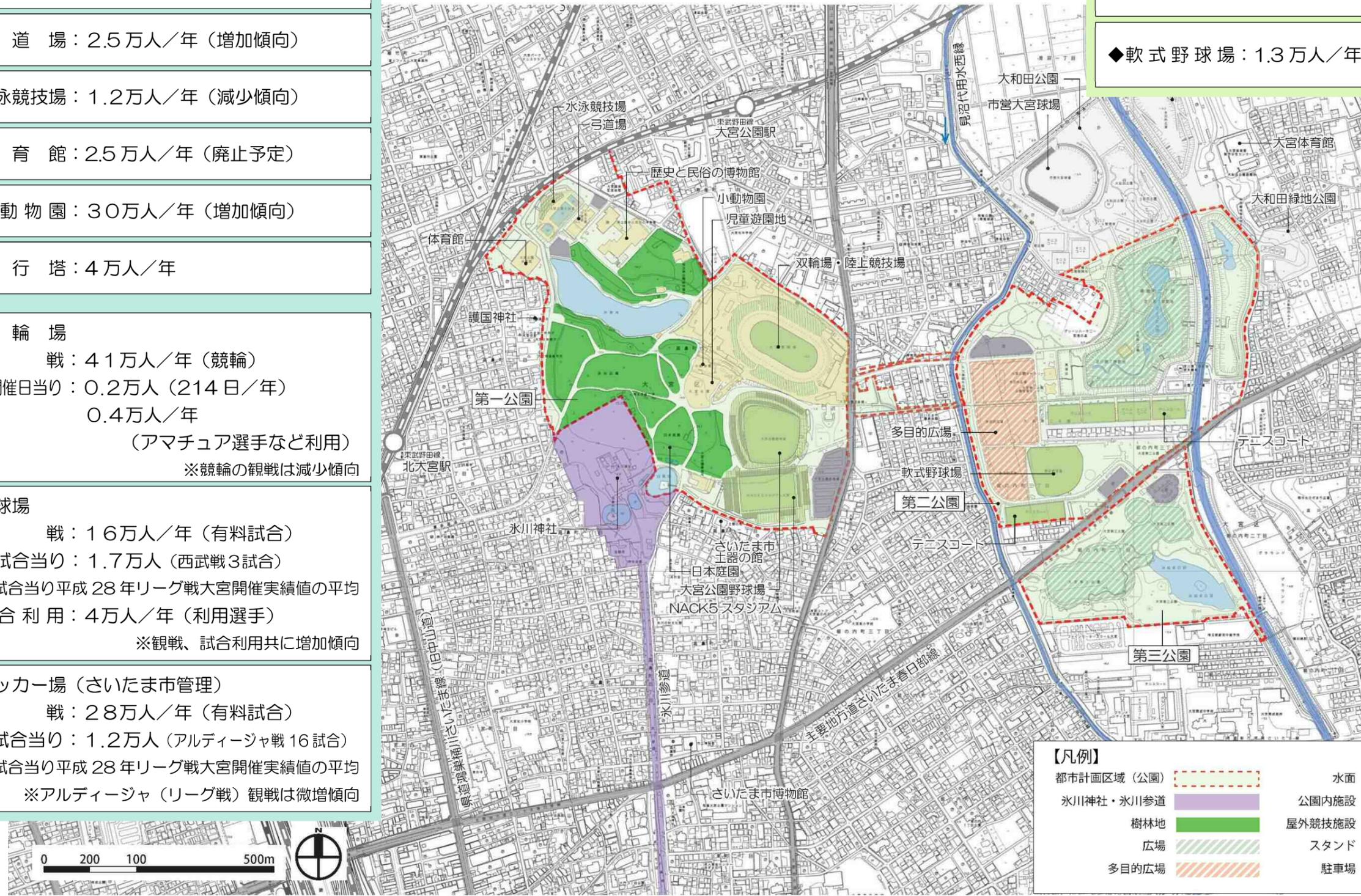
【不満な点】

- ◆売店の老朽化、ニーズとの不一致
- ◆観光に結びつく目玉施設がない
- ◆インバウンドの取り込み策がない
- ◆園内を走り抜ける自転車
- ◆観光スポット間の回遊性の不足
- ◆カラスの多さ
- ◆舟遊池の活用（ボートの復活等）

(2) 大宮公園のポテンシャル（施設利用者数（観客数））

第一公園 施設利用者数（観客数）
◆歴史と民俗の博物館 ：14万人／年（横ばい）
◆弓道場：2.5万人／年（増加傾向）
◆水泳競技場：1.2万人／年（減少傾向）
◆体育館：2.5万人／年（廃止予定）
◆小動物園：30万人／年（増加傾向）
◆飛行塔：4万人／年
◆双輪場 観戦：41万人／年（競輪） 1開催日当り：0.2万人（214日／年） 0.4万人／年 （アマチュア選手など利用） ※競輪の観戦は減少傾向
◆野球場 観戦：16万人／年（有料試合） 1試合当り：1.7万人（西武戦3試合） ※1試合当り平成28年リーグ戦大宮開催実績値の平均 試合利用：4万人／年（利用選手） ※観戦、試合利用共に増加傾向
◆サッカー場（さいたま市管理） 観戦：28万人／年（有料試合） 1試合当り：1.2万人（アルディージャ戦16試合） ※1試合当り平成28年リーグ戦大宮開催実績値の平均 ※アルディージャ（リーグ戦）観戦は微増傾向

第二公園 施設利用者数
◆テニスコート：12万人／年（増加傾向）
◆軟式野球場：1.3万人／年（横ばい）



※各施設利用者数は平成28年度統計による

(3) 大宮公園とその周辺のポテンシャル

【大宮アルディージャのまち】

- ◆大宮アルディージャ・ホームスタジアム
 - ・サッカー観戦：28万人/年
- ◆アルディージャ通り（一の宮通り）
 - ・商店街活性化計画の推進（一の宮通りまちづくり協議会）

【鉄道博物館】

- ◆来館者数：77万人/年

【大宮駅周辺の商業環境】

- ◆商都・大宮として県内随一の商業集積を誇る
- ◆オフィス賃料は横浜市より高いが、空室率は品川・田町エリアより低い傾向を示す

【JR大宮駅】

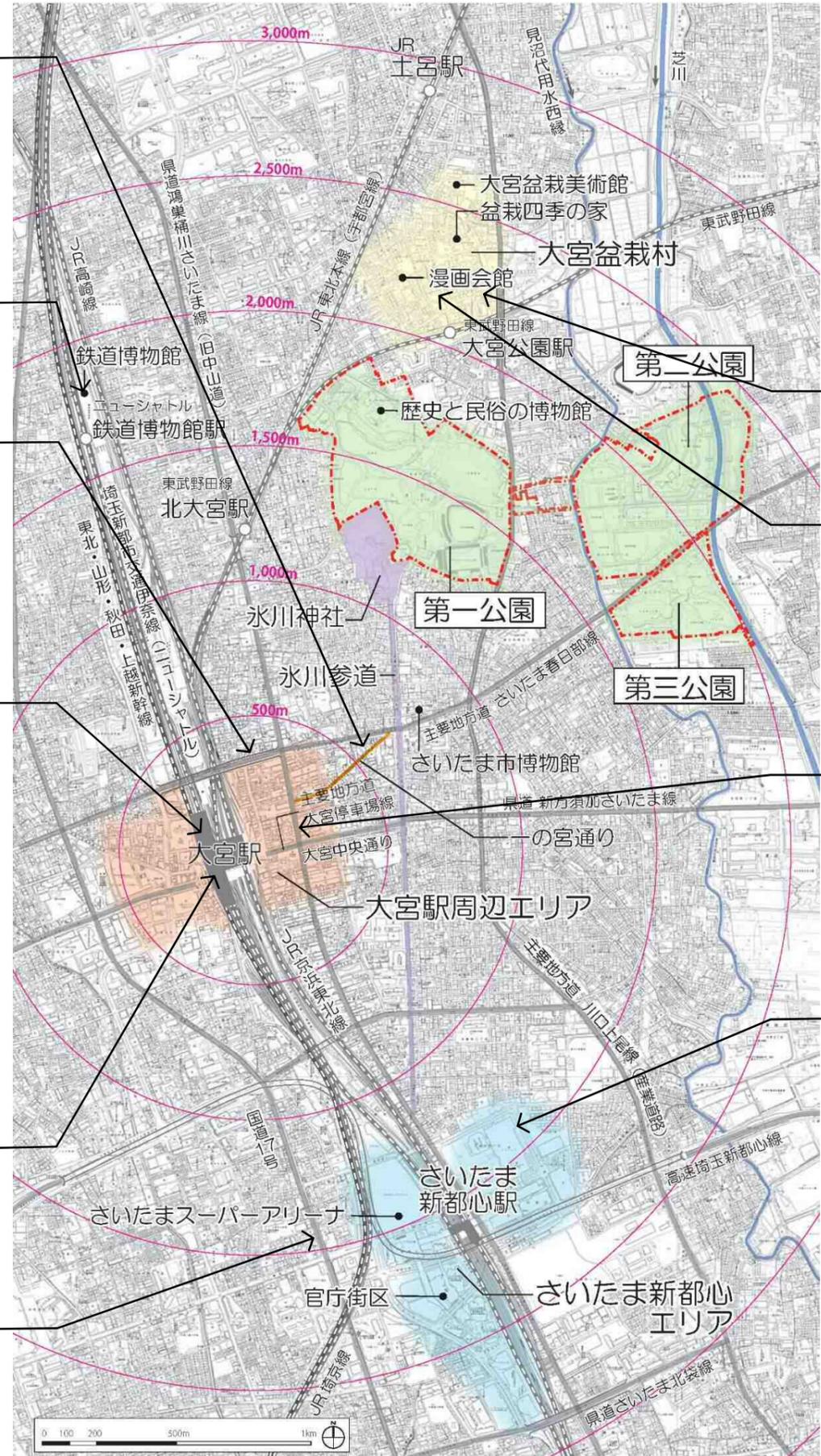
- ◆首都圏広域地方計画で、西日本の玄関口「品川」と並び東日本の玄関口として位置付け
- ◆乗車人員：24.5万人/日（全国9位）
 - ※2014年度統計 JR東日本HPより
- ◆関東11都県を巡る広域観光ルートの重要な結節点（広域観光周遊ルート形成計画：観光庁）
- ◆「子どもと行きたい、連れて行きたい駅」1位
- ◆「住みたい駅」1位
- ◆「思い出深い駅」2位
- ※「みんなで決める！ JR東日本1634駅ランキング」（2017年JR東日本実施）

【東武大宮駅】

- ◆東武鉄道内 利用者数：7位
- ◆乗降人員：13.4万人/日
 - ※2015年度統計 東武鉄道HPより

【道路網・交通量】

- ◆国道16・17号交通量：8万台/日以上



【大宮公園とその周辺地域資源】

- ◆歴史や文化を感じる多彩な地域資源の集積
 - ・武蔵一宮 氷川神社、氷川参道
 - ・大宮盆栽村、鉄道博物館、県立歴史と民俗の博物館、市立博物館
 - ・中山道まつり、大宮フリーマーケット等イベント
- ◆身近に自然や緑を感じられる
 - ・日本一の長さの氷川参道（約2km）
 - ・首都近郊の貴重な大規模農地である見沼田圃

【大宮盆栽村】

- ◆大宮公園は、氷川神社と盆栽村を繋ぐ拠点

【大宮盆栽村内の施設利用者数】

- ◆盆栽美術館：7.3万人/年
- ◆盆栽四季の家：0.9万人/年
- ◆漫画会館：3.1万人/年
- ◆第8回世界盆栽大会：4.5万人（3日間 さいたまスーパーアリーナ）

【大宮駅周辺のまちづくり活動】

- ◆大宮駅東口では市街地再開発事業等の民間まちづくりが進展
- ◆大宮駅付近の中心市街地で複数のまちづくり団体が活動
 - ・東側：14団体、西側：3団体

【さいたま新都心】

- ◆首都直下地震等の災害時のバックアップ拠点（国の出先機関が集中）
- ◆さいたまスーパーアリーナ
- ◆大規模商業施設

【大宮区のまちづくり方針】

さいたま市都市計画マスタープラン（2030年を目標）

- ◆大宮駅周辺とさいたま新都心が連携した魅力ある都心づくり
- ◆みどりのシンボル核の育成

4. 大宮公園の未来を考える

(1) 人々（時代）の欲求の変化（大宮公園の変遷から）

過去

経済の成長、人口の増加など、それぞれの時代の要請を背景に緑とオープンスペースの質（施設）と量（面積）の整備を急いできた。

そして、現在は

大宮公園は成熟期に入り、ある程度の快適さ、便利さ、憩いの場の空間などが提供されるようになり、県民の欲求の切実さが薄まっている。

ライフスタイルの変化に対応し、経済の発展により得てきた「豊かさ」は「健康」、「住環境」、「ゆとり」などといった人生を積極的に楽しむことや有意義にしようとする欲求に変化しつつある。

(2) 制度改正によるブレークスルー

都市公園が新たなステージに向かうためには、

（「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園などのあり方検討会最終報告書」：国土交通省 平成 28 年 5 月（座長 進士五十八））

社会の成熟化、市民の価値観の多様化、都市インフラの一定の整備などを背景に、緑とオープンスペースが持つ多機能性を、

- 都市のため（持続可能で魅力あふれる高質都市の形成 など）
- 地域のため（個性と活力ある都市づくりの実現 など）
- 市民のため（市民のクオリティ・オブ・ライフの向上 など）

に最大限引き出すことを重視するステージに移行すべき。

観点1：ストック効果をより高める（今あるものをどう活かすか、という視点を重視すべき など）

観点2：民間との連携を加速する（民間のビジネスチャンスの拡大と都市公園の魅力向上 など）

観点3：都市公園を一層柔軟に使いこなす（公園の個性を引き出す工夫 など）

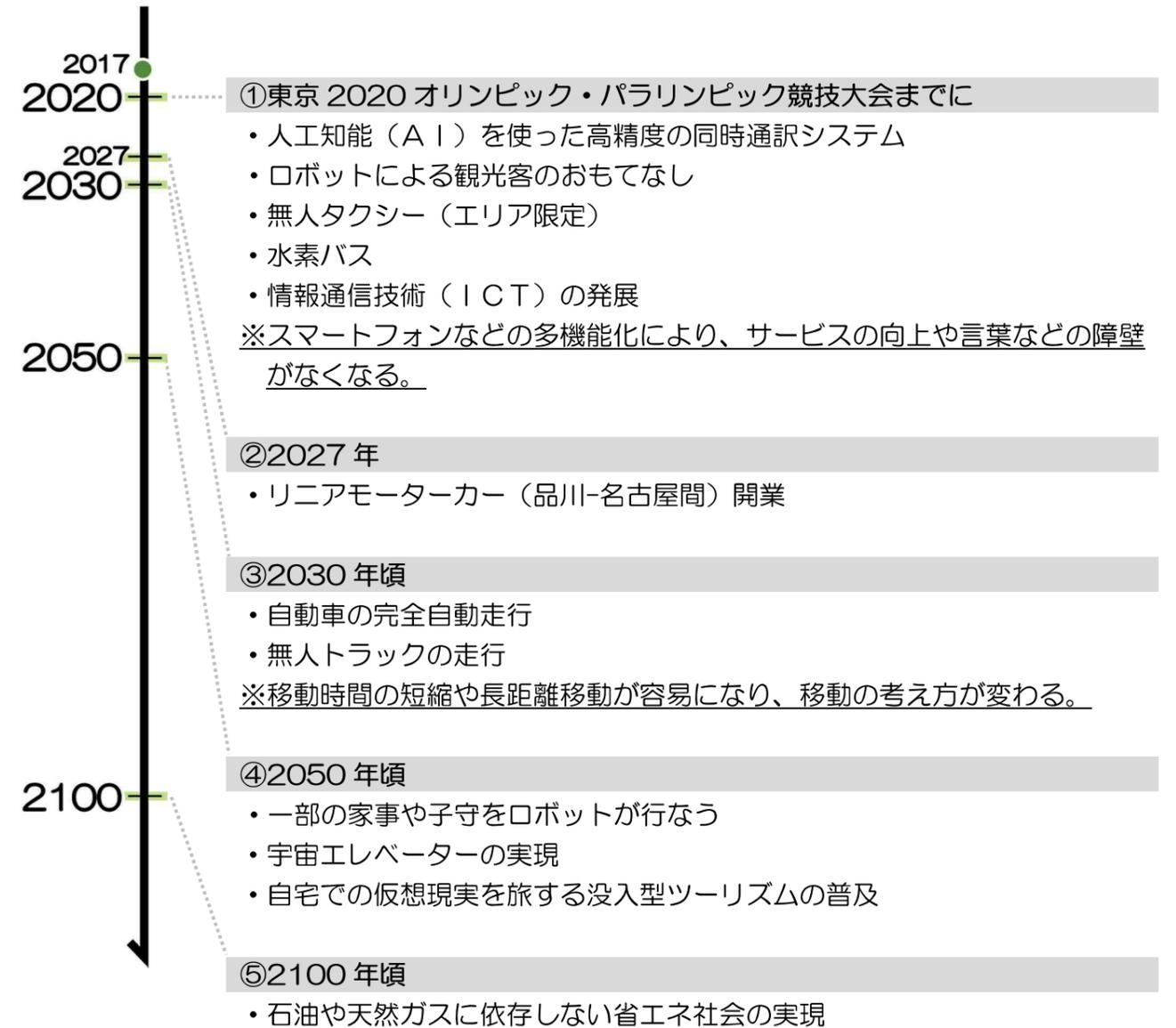
国は公園利用者を満足させられるようなサービスを提供するために、平成 29 年 6 月に都市公園法の改定を行った。

制度を変更することで都市公園にも革新（ブレイクスルー）を起こそうする機運ができつつある

【 守りから攻めの公園行政への転換 / 公園は地方創生のコアになりうる 】

(3) 新技術によるブレークスルー

第4次産業革命の時代として、ICTの技術革新により多くの情報がスマートフォンや携帯端末などに表示される時代となった。このような技術は我々の生活に欠かせないものとなり、新たなステージを考慮すると重要な社会インフラと位置付けられる。



快適さ、便利さを追求する技術的ブレークスルーが成長を創り出している

(4) 世界の都市公園の例

都市のため（高質都市の形成）

ハイライン（アメリカ ニューヨーク市）

- 高架鉄道跡を公園に再生したことで、地域の再生が促進

- ◆ベンチ等人が佇める都市空間
- ◆高架上の植栽による潤い空間の創出

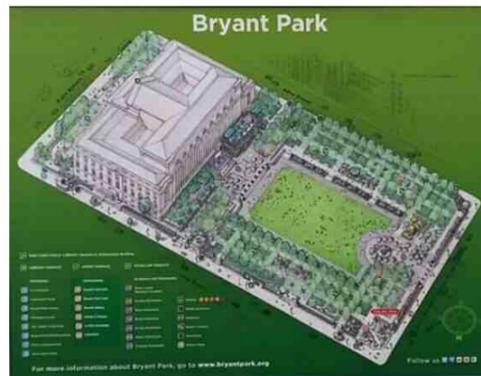


写真：トリップアドバイザーより

ブライアント・パーク（アメリカ ニューヨーク市）

- パークマネジメントによる都心公園の再生

- ◆芝生広場をコンサート会場、野外映画劇場、スケートリンクなどに活用



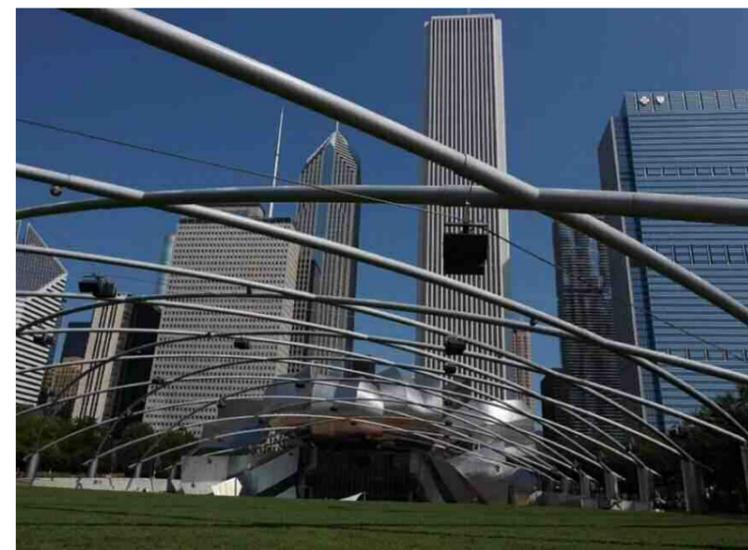
写真：トリップアドバイザーより

地域のため（芸術の活用）

ミレニウム・パーク（アメリカ シカゴ市）

- パブリックアートによる都市イメージを刷新する公園

- ◆巨大な現代アートのオブジェなどに人が集まる



写真：トリップアドバイザーより

モエレ沼公園（日本 札幌市）

- 札幌市の「環状グリーンベルト構想」の拠点公園
- 基本設計は、彫刻家イサム・ノグチ

- ◆「全体を一つの彫刻作品とする」が基本コンセプト
- ◆自然とアートが融合した美しい景観が魅力
- ◆ゴミ処理場跡地、雪を活用した冷房システムの導入など、環境に配慮した計画



写真：トリップアドバイザーより

市民のため（クオリティー・オブ・ライフの向上）

セントラルパーク（アメリカ ニューヨーク市）

- 周囲の摩天楼で働き暮らすマンハッタンの人々のオアシス
- アート、ビジネス、教育、福祉などとの連携した柔軟な公園経営

- ◆約 340ha の敷地に、湖や芝生広場、スケートリンク、動物園などが配置
- ◆渡り鳥のオアシスとしても機能しており、バードウォッチングなども盛んである
- ◆管理は、市と契約する非営利団体「セントラルパーク委員会」が行なう



写真：トリップアドバイザーより

大宮公園ランドデザインの方向性

<130年余りの歴史と共に都市の成長を育んできた公園の100年先を見据えた新たなステージの展開を考える>

大宮公園ランドデザインの基本キーワード

現状分析から見えてくるもの

【歴史・変遷】

- ・武蔵一宮氷川神社との関わり
- ・氷川公園発祥時に観光地にしようとした地元の思い
- ・文人墨客に愛された景観とその歴史
- ・本多静六博士が設計に込めた思い
- ・時代の潮流（オリンピックや都市の緑の保全）を捉えた公園の成長

【ポテンシャル】

- ・桜の名所 100選
- ・日本の都市公園 100選
- ・大宮駅は乗車人員全国9位（24.5万人/日）
- ・日本一長い参道 氷川参道 約2km
- ・スポーツ施設群（観戦する文化）
- ・見沼田圃の環境保全

【まちづくり】

- ・大宮区のまちづくり方針（氷川の杜の緑と文化が調和するまち）
- ・東日本の玄関口
- ・大宮区のイメージカラー オレンジ色（大宮アルディージャのチームカラー）
- ・盆栽の国際的普及（インバウンドの取り込み）
- ・ツール・ド・フランス
さいたまクリテリウム
- ・さいたま国際マラソン

各委員の意見等から見えてくるもの

【欠如、希薄、排除、転換、保持、活用、創造】

【埼玉県のシンボル】

- ◆赤松と桜が織りなす景色【保持、活用】
- ◆埼玉らしさを発信する場【欠如、創造】
- ◆氷川神社を感じる神聖な空間【保持、活用】

【景観・空間】

- ◆生活動線が混在【排除、転換、創造】
- ◆見せ場、魅力【欠如、創造】
- ◆台地（大宮台地）と低地（見沼田圃）の立地【活用】
- ◆舟遊池の眺望【希薄、創造】

【観光・インバウンド】

- ◆インバウンド対策【欠如、創造】
- ◆回遊性【希薄、創造】
- ◆滞留（飲食の場等）機能【欠如、創造】
- ◆スポーツ観戦（応援）の文化【保持、活用、創造】
- ◆公園のテーマ（特徴）の打ち出し【希薄、創造】

【まちづくり、運営】

- ◆公園は、まちの将来を牽引する都市の顔【希薄、創造】
- ◆民間活力の活用【欠如、創造】
- ◆地域住民の関わり【保持、活用】

大宮公園ランドデザイン

将来像、コンセプト、施策の方向性と施策方針

（哲学からデザインまで一貫した全体像の創造）

都市の
市民の
ため
の
公園

埼玉県民にとっての シンボルの創造

- ・埼玉県民のハレの場所（心のよりどころ）
- ・友人を案内したくなる場所

景観・空間構造の再構築

- ・人を魅了する、また来たくなる風景・空間
- ・アメニティー・デザインの展開

世界の人を ひきつける魅力の追求

- ・世界に自慢できるもの
- ・社叢林、桜や赤松が織りなす風景

未来を見据えた 日本の公園像の実現

- ・まちづくりの核となる公園
- ・社会の変化に対応した公園